リフォームをめぐる人々 33

月1回掲載

三井のリフォーム 住生活研究所 所長　西田恭子

インテリア学会と司馬遼太郎記念館

「第二三回日本インテリア学会」が大阪の大学で行われた。

大阪は何度も出張し、大阪の過ごし方は知っているつもりでいた。エスカレーターは東京とは逆の右に立っていなければ、歩く羽目になることや、新幹線で帰るときには、中途半端なお土産より「551の豚まん(肉まん)」が一番だとか。

だが今まで出張先がほとんど新大阪から本町近辺だったので、今回の近鉄奈良線「河内小阪」ってどこ？と戸惑った。どうやら大阪を左右に横断する線の東大阪地区、懇親会場近くの駅から行くと、乗り換えは「日本橋」らしい。東京の「日本橋」と違い、「にっぽんばし」と呼ぶことも今回は教わった。

新しいところに行く時は、たどり着くまで若干の緊張感があるものだが、それが私の旅好き、出張好きを作り出していそうだ。

さて、いろいろな学会があるなかで、日本インテリア学会は最も産学協同を意識下に置いた会ではないかと思う。数ある研究発表の中で、住まいに関する論文発表を大学の先生や民間研究所の方々から聞いただけでもさらにその思いは深まった。

またそうは言っても学会というところは、圧倒的に大学の先生方が多く、お互いが研究テーマをもとに連携を作っていて、ここでは私も企業人と言うより大学で非常勤講師をしていますというほうが、通りもよく親しみをもっていただけることに気がついた。どうやら研究者同士という連帯感を感じていただけるようなのだ。

懇親会では、私の隣の席は某国立大学の教授、右は某私立大学の教授だった。とても著名な方々に囲まれ、慣れない一日を緊張しながらも楽しんだ。

研究発表の合間の昼食は、お弁当が配られるのだが今回はそそくさと食べ、退席する先生が目立った。どこに行かれるのかとお聞きすると、会場近くにある「司馬遼太郎記念館」に行ってくるとのこと。

司馬遼太郎氏にも関心があるが、たしかその建物は安藤忠雄氏の設計だったのではと、私もあわててお弁当を食べ終え記念館に向かった。

「司馬遼太郎の世界」と「安藤忠雄の世界」を同時に堪能できるなんて！　なんという幸せだろう。最後の一筆まで書き続けた司馬遼太郎氏の書斎にも、安藤忠雄氏が設計した高さ十一メートルの壁面に並べられた二万余冊の蔵書にも心打たれながら、大あわてで大会に戻った。

その時、お城フェチである私は『司馬遼太郎と城を歩く』という単行本を、ちゃっかり買い込んでいた。ここで購入した場合だけ付けてくれる、「司馬遼太郎記念館」と書いてあるブックカバー(写真はその一部)のある本が、私の自慢の一冊になりそうだ。

西田恭子氏のプロフィール＝一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。